

第2回 東京都教員育成協議会 会議要旨

- 1 日時 平成29年5月22日（月）午後3時から午後5時
- 2 会場 東京都庁第二本庁舎31階特別会議室24
- 3 出席者 出張委員（委員長）、増渕委員（副委員長）、佐々木委員、森山委員、高橋委員、藤井委員、小林委員、矢下委員、坂田委員、山下委員、野村委員、上原委員、竹村委員、朝日委員、早川委員、江藤委員、大和委員

4 議事内容

(1) 委員長選出

- ・ 教育監を本委員会の委員長に選出
- ・ 指導部長を本委員会の副委員長に選出

(2) 「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標（素案）」について

事務局から資料を説明後、意見交換

○成長段階、人材育成の基本的な事項

- ・ 本指標について、指標は概要としての位置付けとし、詳細は「東京都教員人材育成基本方針」、「学校管理職育成指針」、「OJTガイドライン」の3冊で示すことが必要である。
- ・ 成長段階を職層で分けることや指標として最低限身に付けるべき内容を示すことは、大学が学生に身に付けさせるべき具体的な力を明確にするために必要である。
- ・ 教員の成長において、1～3年目は、やりがいを感じさせるなどしながら基礎的な力を十分に身に付けさせることが大切であり、試行錯誤があってもよい。
- ・ 東京教師道場や教育研究員などの研修体系との関連を示せるとよいので、指標に基づいた研修体系の確認が必要である。
- ・ 基礎形成期としての指標を示してあるため大学は活用しやすいが、成長段階を年数として数値化して示すのは難しいため発達段階として示す方がよい。
- ・ 素養に関する事項と人材育成の基本的な事項との関係を構造化し、分かりやすく示すことができるとうよい。
- ・ 素養に関する事項と人材育成に関する基本的な事項を分けない方がよい。
- ・ 管理職は、指標を職層ごとに示すことで、自己申告を通して教員を育成しやすい。研修の制度と関連して示されると、研修計画などを管理職が教員に提示しやすくなる。
- ・ 成長段階については、主任教諭のままでも主幹教諭に示されている内容を目指してほしい教員もいるため一人一人に合わせて、職層を超えた示し方ができるとよい。
- ・ 人材育成の基本的な事項には、アクティブ・ラーニングやカリキュラム・マネジメントという文言を入れる必要がある。

○教育課題への対応に関する項目

- ・ 教育課題への対応について、教員が抱え込んでしまう事例が見られるため、「チーム学校」に関係する部分について書き込む必要がある。
- ・ マネジメントする力は、初任者であっても、学級経営というマネジメントが必要である。カリキュラム・マネジメントも授業づくりの上では、若手教員であっても必要な発想である。
- ・ 小学校の喫緊の課題は、中学年の外国語活動及び高学年の教科としての外国語への対応であるため、外国語への対応を入れ、東京都らしさを出すことが必要である。